

# 高等教育評価のために生まれた 学術評価基準

## —ブラジルの例—

則竹 理人

ブラジルでは、国内の高等教育の評価の一環として、学術雑誌の評価基準を独自に設定している。

連邦教育省所管の財団である「高等教育支援・評価機構」(CAPES)は、学術成果へのアクセス確保・普及活動や、国際的な学術協定の促進活動などを担うなかで、国内の大学院の評価も行っている。研究プログラム計画、教員体制、学生の成果、社会貢献などのほか、所属教員の学術成果が大学院評価の構成要素になっている。

教員の学術成果を評価するにあたって、まず国内外の(ポルトガル語以外も含む)あらゆる雑誌の評価が設定される。それに基づいて、どの雑誌に何本の記事が掲載されたかによって、各大学院(専攻)の所属教員の学術成果が定量的に評価され、最終的には大学院(専攻)自体の評価の一部として勘案される仕組みである。

雑誌の評価は、名称に多少の変遷はあるものの毎年改定されており、本稿執筆時点では2010年から2015年までの評価を、CAPESのウェブサイト上に構築されているデータベースで検索することができた。

### ●学術分野ごとに定められた評価基準

雑誌の評価基準を含む大学院の評価基準は、CAPESが独自に定めた50弱の学術分野ごとに作成されている。分野ごとに委員会が設けられ、大学教員を中心とした専門家が参加して評価基準の制定を行っている。評価基準の具体的な内容は約3年ごとに見直されており、本稿執筆時点では、CAPESのウェブサイト上に、2007年から2009年にかけて適用されたものと、2010年から2012年にかけて適用されたものが掲載されていた。以降の内容は、2010年から2012年にかけて適用された基準を参照している。

分野にかかわらず共通事項として、評価は大きく

3ランク(A、B、C)、小さく8ランク(Aが2ランク、Bが5ランクに細分)になっており、いわゆるランク外は存在せず、必ずいずれかの段階に振り分けられる(最低評価の場合は「C」となる)ことが挙げられる。とはいえ、評価基準は分野ごとに定められているため、評価のランクによって異なる分野の雑誌同士を比較することはできない。

### ●評価基準の指標として用いられる 論文データベース

各分野とも、評価基準は細かいランク(8ランク)ごとに定められている。刊行頻度(例:週刊および週刊よりも頻度の低いもの)やISSNが付与されていること、オンラインで閲覧できることなど、雑誌の性質に関する要素のほか、大学院の学位論文の収録有無や、著者の所属機関が一定数以上多様であるかどうかといった、執筆者に関する要素なども用いられ、評価基準が設定されている。

どの分野においても基準の中心となっているのが、学術的であるかどうか、さらには各分野の研究に資するものであるかどうかといった、内容的な(質的な)要素である。そのような基準を設定するにあたってよくみられるのは、特定の著名な論文データベースへの記事情報の掲載有無や、各データベースにおける評価の度合を参照する手法である。

### ●指標としてのJCR

分野を超えて最もよく用いられているデータベースは、インパクトファクターが公表されているJCRおよびWeb of Science(WoS)である。単にこれらのデータベースに記事情報の掲載があるかどうかによって評価がなされる場合(①)と、インパクトファクターの数値によって評価が分けられる場合(②)がある。①

は人文・社会科学系分野の評価基準においてよくみられ、②は自然科学分野の評価基準においてよくみられるが、経営学においては②の手法が取られている。いずれの場合も、具体的に先述の8ランクのなかのどれを付与する条件として用いられているのか、また②の場合、その基準となる数値はいくつであるかについては、分野によって多種多様である。

例として、まず①の手法を採用する分野を比較すると、人類学・考古学においては、JCRに雑誌情報が掲載されているだけで最高ランクであるA1が付与される一方、政治学においてはA2ランクが付与される。②の手法を取る分野についても、たとえば宇宙工学・物理学においては、インパクトファクターが6.0以上であることでA1ランクが付与されるが、看護学においては、0.8以上であればA1ランクが付与される条件設定がなされている。

インパクトファクターを指標とする場合、基本的には同じ分野の他の雑誌の評価は関係なく、ポイントによる絶対評価がなされるが、なかには相対的な評価を行っている分野もある。工学Ⅲ（機械工学、生産工学等）においては、その分野の雑誌で0.1以上のインパクトファクターが付与されているものを、ポイント順にA1、A2、B1ランクに振り分ける。その際の条件として、A2以上のランクが付与される雑誌の数はその分野の全雑誌数の4分の1未満となることや、A1ランクが付与される雑誌の数はA2ランクの雑誌の数を上回らないことなどが設定されている。

なお、各分野の評価基準を比較するにあたって注意が必要なこととして、ある条件が数ある必須条件のなかの一つに過ぎない（それだけでは所定のランクが確定しない）ケースや、代替できる条件が他に存在するケースがある点を挙げておきたい。たとえば、生物多様性学と農学においては、いずれもインパクトファクターが2.5ポイント以上であればA1ランクを獲得できるが、生物多様性学の場合はSCImagoのポイントも代替条件として設定されており、仮に（JCRの）インパクトファクターが2.5ポイント未満であっても、SCImagoの条件を満たしていればA1ランクを獲得できる可能性がある。

他にも細かな違いは数多くあり、詳しくは評価基準の原文を参照されたいが、分野によってJCRやそのインパクトファクターの重要度に差があることは歴然で

ある。

## ●指標として用いられる、JCR以外のデータベース

指標として最もよく用いられるデータベースとはいえ、JCR（およびWoS）やそのインパクトファクターが指標となっていない分野もいくつかある（48分野中10）。そのような分野の大半は人文・社会科学系であるが、生物学Ⅱ（形態学、生理学など）においても例外的に指標となっていない。

生物学Ⅱにおいては、JCRの代わりにSCImagoを指標として採用している。先述の生物多様性学もその一つであるが、SCImagoをはじめとしたScopus関連の指標も、JCR関連の指標の次に多くみられる。

また、SciELOやLATINDEXなど、世界的ではないがラテンアメリカでは広く普及しているデータベースを指標とする手法も多くの分野において採用されている。他にも、各分野に特化したデータベースを指標としている例もあり、分野ごとに評価基準を設定する利点の表れであると捉えられる。

## ●今後の展望

このように、ブラジルにおける独自の雑誌評価基準は大学院評価の一部として確立したものであるが、著名なデータベースへの掲載有無やそのインパクトファクターが評価の指標として積極的に採用されている。まもなく新たな評価基準が公表されると考えられるが、インパクトファクターを「評価」として捉えることに疑問符が示される昨今の情勢を踏まえると、今後の動向は注目に値する。

また、本稿では取り上げなかったが、CAPESは学術雑誌の評価基準のほか、一部の分野については学術図書（単行本）の評価基準も設けている。分野によっては、論文を雑誌に投稿するよりも図書の形で出版することが多い場合もあるので、学術図書の評価の動向に注目することも必要であろう。

（のりたけ りひと／アジア経済研究所 図書館）

## 《参考ウェブサイト》

高等教育支援・評価機構（CAPES）。

<http://www.capes.gov.br/>